

吹田地域自立支援協議会全体会

2015.08.03

精神保健福祉ネットワーク会議報告

吹田市精神保健福祉ネットワーク会議 議長 中山 恭子 (のぞみ福祉会)

吹田市精神保健福祉ネットワーク会議は、主に社会的入院を余儀なくされている精神障がい者の退院（地域移行）を進めるため、それにかかわる様々な機関が集まって、安心して退院できる地域づくりについて考えている会議です。

その中で法律では障がい種別に関係なく利用できる福祉サービスとされているにもかかわらず実際に精神障がい者が使えるサービスが依然として少ないこと、入院を含む医療サービスだけでは地域の福祉サービスの情報が得にくいこと、一般市民にとどまらず今まで主に他障がいを支援してきた事業者にも精神障がい者理解がなかなか進まないことなどから、適切なサービスにつながっている人がまだまだ少ない現状があり、それを解決できるよう話し合ってきました。

精神障がい者支援は、当事者が抱える生活のしづらさ（障がい）が病状や環境によって変化し、固定された障がいではないことでのニーズの変化、多様さに対応できる支援を確保する困難さや医療との連携なしに支援できない特性をもつこと、一方では社会にある精神障がいに対する根強い偏見を払拭し誰もが安心して地域で暮らすためには、吹田市全域での啓発の取り組みも必要であり、この会議だけでは解決が進まない課題も多く見つかりました。

そこでかねてから提案してきた地域体制整備コーディネーターの配置や、社会的入院の解消、地域啓発の課題について検討する場として、精神障がい者支援部会（仮）を作るための準備会を立ち上げることを検討していただきたいと思います。